

南通遺跡 第33地点

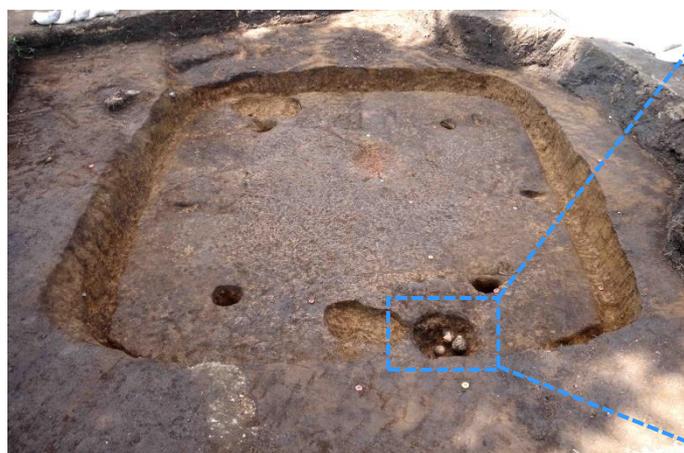
遺跡名	南通遺跡
よみがな	みなみどおりいせき
調査地点	第33地点
主な時代	弥生時代後期～古墳時代初頭（約2,000～1,700年前）、近世～近代
調査地	針ヶ谷2丁目
調査面積	1050.08 m ² のうち、約300 m ²
調査期間	令和6年7月30日～令和6年9月9日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡4軒、近世～近代の土坑1基</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期～古墳時代初頭の土器（高坏、埴など）</p> <p>【概要】 針ヶ谷地区の南通遺跡は、柳瀬川低地に面する台地の縁辺部に位置しています。現在までの調査によって、弥生時代後期～古墳時代初頭の住居跡300軒以上や、集落を囲む環濠が発見されるなど、約2,000年前の弥生時代後期を中心とした大規模な環濠集落があったことがわかっています。</p> <p>今回の調査は、針ヶ谷小学校から北に100mほどの地点で行われ、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡4軒、近世～近代の土坑1基を調査しました。住居跡のうち1軒では、住居に設けられた「貯蔵穴」から、土器や粘土の塊が出土しました。当時の人々が、土器の素材とするための粘土を保管していたのかもしれない。</p>



発掘調査の様子



弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡
一辺が約6～7mを測る方形。



弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡
一辺が約5mを測る、隅が丸い方形。



竪穴住居跡の貯蔵穴から、
土器や灰白色の粘土塊が出土した様子